

Feeling excited

“Dance with Heart”

We are burning with enthusiasm
in creating national art for the new era.

The Kikunokai Dance Troupe

Chairperson : Satoshi Hata

日本のおどり

発行：舞踊集団 菊の会

〒161-0031
東京都新宿区西落合2-21-23
03-5983-6001 (代表)

菊の会 京都八瀬研修所

〒601-1254
京都市左京区八瀬野瀬町10
075-712-8701 (代表)

<http://www.kikunokai.co.jp>

Dancing from the heart



謹賀新年



舞踊集団 菊の会

代表 畑

聡

舞踊集団菊の会は本年、創立四十周年を迎えることができました。

節目となる新しい年を迎え身が引き締まる思いです。同時に、長年にわたる皆様の温かい御支援の賜物にほかならないと、あらためて深く感謝申し上げます。

ここに至るまでには、本会創立者である畑道代が懸命に私ども後進を育てようとし、かつ多くの作品を残そうとした意志に大きく負っていると思います。もとよりこの歴史の重みを受け継ぐべきは私どもでございます。しかし皆様が私ども以上にその重みを御理解くださり、畑道代の生前と変わらぬばかりか、以前にも増して皆様より御厚情を賜りましたからこそ今日を迎えることができましたものと確信しております。

畑道代先生を失って早や二回目の新年を迎えましたが、昨年は無我夢中のうち、瞬間に一年が過ぎた感があります。今年も秋までの主な公演は既に予定を作り終えましたが、あらためて冷静に原点に立ち返り、公演の質を維持し続けることに力を傾けて参りたいと思っております。同時に大切なのは、質の維持が単なる停滞に陥ることなく、前進し成長につなげてゆくことであると考えております。

現在に安住せずに学び続ける姿勢、挑み続ける情熱を忘れないこと。私どもを心に掛けてくださる諸先生・諸先輩方、そして御支援くださる多くの皆様に常に感謝の気持ちをお忘れなことです。四十周年を迎える今、何より強く思うのはこのことです。

菊の会一同の各人が創立者の思いをおのが思いとしつつ、心を一つに結束し、舞踊団の維持存続の難しさに立ち向かってゆきたいと存じます。今後とも何卒、変わらぬ御指導賜わり、お引き立て下さいますよう、心よりお願い申し上げます。

「躍進する 新生菊の会に」

舞踊評論家
三枝 孝榮



長唄「菊の泉」初代 尾上菊之丞師と尾上菊乃里

畑道代さんを偲ぶ「菊の会」、日本のおどりが昨年十月にあった。早いもので畑さんが亡くなって一年余り、当日は菊の会らしい作品が並んでいた。特に菊の会最初の作品「ふるさと囃子」はまさに菊の会のレパートリーの集大成の作品を綴った内容で、日本各地の民俗芸能を展開されダイナミックな踊り、菊花太鼓の響

きに圧倒され、一同が畑さんを偲ぶ熱情が伝わる見事な作品として披露された。私にとってはどうしても畑さんというより尾上菊乃里さんという方が思い出に残る。何しろ初めてお目にかかったのは昭和三十一年、まだ私がNHKで舞踊番組を担当していた頃、初代尾上菊之丞師が出演された時にその初代から紹介された時だからもう五十五年も前のことだ。以来テレビの創作番組やそのほか様々な作品でお世話になった。そして古典から日本全国にある民謡、民族芸能を含めて、日本舞踊を普及する目的で舞踊集団「菊の会」を設立された。以来畑さんの菊の会での活躍よりは周知のとおり、日本全国はもとよ



TV初出演 昭和31年7月13日「野路の月」スタジオに於いて

り世界各地にその活動を展開して来た。畑さんは自らが集団の人達を統率し共にダイナミックな舞台を続けて来た。その作品は日本の誇るべき日本

舞踊を一般に理解され普及させる努力の賜物であった。舞踊ばかりでなく、目玉として三隅治雄氏の作、演出による長編舞踊劇の上演も一つの目玉として注目されていた。その代表作として知られる芸術祭優秀賞を受賞した「カツチャ行かねかこの道」は十一月に各所で再演され菊の会の舞踊集団としての存在が再び大きな成果をあげることであった。さて、菊の会は今年で創立四十周年を迎える。代表が畑聡氏になったが、この菊の会の創立以来の精神は変わることなく、更にその道に向かつて大きく、様々な舞台を展開し、躍進を続けられ、まさに新生菊の会として舞踊界を担う大きな柱として発展されることを期待しています。



「踏み出す 期待する」

長唄「菊の泉」



「寒牡丹」を踊る畑 聡代表

東日本大震災によって日本の社会は大きな衝撃を受け、まだその打撃から立ち直ることができずにいる。一昨年の夏以来、創立者の畑道代さんなして活動を行わなければならなくなった菊の会にとって、この災難

三隅治雄さんの作・演出による舞踊劇だ。畑さんと三隅さんによって作り上げられた作品は他にもたくさんある。『畑道代を偲んで』で上演された民族舞踊詩『ふるさと囃子』もそのひとつで、これは菊の会が発足した一九七二年に初演された。日本舞踊をやる人、見る人が少なくなっていく日本の状況に危機感を持たれ、学者でありながら実践の場に身を投じられた三隅さんがこの作品に込めた期待の大きさを今でも実感できる作品だ。

畑道代さんが尾上菊乃里として日本舞踊の奥義を極めた人であることは



韓国清州大学の学生の皆様と共に阿波踊りを踊る

特別寄稿



在大韓民国特命全権大使
武藤 正敏

「菊の会四十周年に寄せて」

菊の会の四十周年を心からお慶び申し上げます。
昨年十一月、韓国忠清北道清州市で「ジャパンウィーク2011」を開催いたしました。そのメイソンの行事が菊の会韓国公演でした。開幕式の前日の事前公演では、八百名収容のホールが満席となりました。公演は、日本舞踊から能・狂言を取り入れた踊り、太鼓・阿波踊りなどの祭りや民謡をベースとした踊りなど、盛りだくさんの内容で、日本の多彩な文化を一気に紹介してくれました。日本の踊りの美しさを伝えるのはもちろんのこと、狂言のユーモアで人々の笑いを誘い、また、世界でもっとも人気のある日本の音楽である太鼓で観客の心をつかみ、日本人の



菊の会韓国公演の会場となったホールの前で

生活や心を伝えてくれました。出演者の皆様は、踊りの基本がしっかりしていらつしやるので、多彩な踊りでも、その道の専門の方のようにすばらしい踊りを見せてくれました。
また、ワークショップも二回開催していただきました。私自

身は講演があつたりして拝見できませんでしたが、阿波踊りや太鼓の体験などを通じて、韓国の学生たちに日本の伝統芸能の楽しさをよく自然な形で伝えていたと聞いています。私が主催したレセプションでも阿波踊りを披露し、出席者を巧みに舞台上に引きあげ、皆で楽しく踊っている姿は大変ほほえましく思いました。
これまで菊の会は、私の前任地であるクウェートでも、日・クウェート国交正常化五十周年の行事に参加していただきました。海外の色々な文化をもつた国で、日本の伝統芸能を紹介するのは容易なことではありませんが、菊の会には多くの国で人気を博し、これに敬意を示す意味で、一九八六年

には外務大臣表彰を行っていません。これからも、海外そして日本で、その豊かな芸術を紹介していただければと思います。
あらためまして、四十周年おめでとうございます。



武藤大使と菊の会メンバー

「烟 道代を偲んで」より



「次への一歩
菊の会」

舞踊評論家
山野博大



は二重の負担となったことだろう。
しかし彼らは十月に浅草公会堂で『日本のおどり』、煙道代を偲んでの公演を盛大に行った。大きな拍手と声援が寄せられ、次の世代に受け継がれた菊の会が、今まで同様に多くの人たちに支えられていることを感じた。彼らは師匠を失った悲しみを乗り越えて、東日本の災害地に向いて被害に遭った人々たちを慰問し、秋の公演では、菊の会の大事なレパートリー『カッチャ行かねかこの道を』の再演を成功させ年間の活動を締めくくった。『カッチャ』は、煙道代さんの振付、



狂言舞踊「太刀盗人」

誰もが知っている。彼女の生涯は、自身の芸を大衆に理解されやすいものに噛み砕いて提供し、日本舞踊の良き、おもしろさを多くの人たちに届けることに捧げられた。二〇一二年は、煙さんの熱い想いを、次の菊乃里になられた煙聡さんの率いる菊の会の新しい力がしっかりと受け継ぎ、さらに大きな日本舞踊普及の運動へと高めて行く記念すべき年になるにちがいない。日本舞踊が元気になることは、日本の文化のためにとっても喜ばしいことだ。他のジャンルの舞踊の人たちにとってもプラスになる。



楷書あつての行書 草書だよ

演出家
大場正昭



「おこんの初恋」

先日の公演「カッチャ行かねこの道」の帰りの電車の中、いつ観ても魅了される菊の会という舞踊集団のあの爽やかさは何だろと思うを廻らしているうち、ふと久保田万太郎戯曲のセリフを思い出した。

”：いまは、手習でいえば、みんな楷書の書けない奴ばかりだ。・・・しかし、楷書あつての行書、草書だよ。・・・だのに、いまの奴は、行書どころか草書しか書けやがらない。・・・”

嘘つばちの草書しか書けやがらねえんだ。”

芸人に限らない。何商売だつてさうだ。楷書が書けるすしやは、だから、節米になつたつて、白米禁止になつたつてビクともしない。・・・よし、タネはまはらなくつたつて、智恵はいくらでもまはるんだ。・・・ところが草書しか書けねえ奴はさう行かねえ。・・・だからこゝへ来て大あわてだ。・・・”

”とにかくハツタリぢやアすまない世の中になつたよ。”

戦時中、昭和十七年八月に発表された「町の音」のすし屋と骨董屋の会話より



「カッチャ行かねこの道を」

先生が身命を賭して教え込もうとされたのが楷書の芸だったのだと今、私は勝手に思っています。

どうぞこれからもその教えを追い求め、さらに目覚しく成長した若手の皆とも智恵を出し合つて、腕をみがいて、・・・本物の草書と行書は少しづつ取り入れてもいいのかな。・・・前へ前へと進んで行つて下さい。

「菊の会」大ファンの一人として



三十三年前、北條秀司作品「おこんの初恋」の初台の稽古場で初めて出会った原(畑)君、佐竹君、鶴岡君、枝木君、竹田君。・・・皆いがぐり頭の中学生だった。中には歳月を経て今や当時の髪型に戻りつつある人もでてきたけど。・・・いつもにこやかな加藤洋子さん、きりつとしたお眼の宮沢りかさん、貴方たちに烟道代

盛大に開催された 鹿児島県沖永良部島 菊の会公演と 鹿児島県学校公演!!



生徒の皆さんが阿波踊りを披露



初めての和太鼓の挑戦にドキドキ!!

一昨年に引き続き、文化庁「次代を担う子ども文化芸術体験事業」巡回公演が昨年十二月十二日鹿児島県沖永良部島知名中学校を初日に、十五日鹿児島県吉野東小学校、十六日鹿児島県西田小学校と三校で開催されました。又沖永良部島では町主催の自主公演も開催のお力によって、当日は大勢のお客様が見まもる中で菊の会「日本の心を躍る」が大成に終了しました。今回も体育

館の舞台を張り出し舞台に組み、照明、音響、大道具にムワークで素敵な舞台に早変わりし、生徒さんからも「照明が綺麗だった、迫力の音楽にビックリした」など、又獅子舞いでは泣きながら先生の後ろに隠れる生徒さんや、初めて観る獅子に興奮する場面もあり、日本の文化をいろいろな角度から感じ取って頂けたと思います。

また十一月にワークショップとして菊の会の代表メンバーが「阿波踊り」を代表の生徒さんに教え、今回の学校公演では最後に生徒さんによる阿波踊りが披露されました。このように菊の会では、明日を担う若き青年との交流を大切に、深い継承しております。本年も一月には種子島、二月屋久島、臼杵市、沖縄市等の



鹿児島県の学校公演にて、全生徒が手拍子で参加した太鼓レクチャー!!

学校公演が予定されております。

INFORMATION 2012年 菊の会公演予定

舞踊集団菊の会創立 40周年記念
【日本のおどり～早春に舞う～】
2月22日(水) なかのZERO (大ホール)
時間 /14:30・18:30 開演
前売料金 / 指定席 6,000円 (自由席 5,000円)



「舞 姫」

【菊の会公演 光に向って】
3月13日(火) サンシティ越谷市民ホール(小ホール)
時間 /14:30・18:30 開演
前売料金 / 指定席 6,000円 (自由席 5,000円)



「菊の会音頭」

【菊の会公演 光に向って】
3月24日(土) 流山市生涯学習センター
時間 /14:00・18:00 開演
前売料金 /4,200円 (全席自由)



「椎葉の春節」

【菊の会公演 今、船出の時】
4月6日(金) 八王子市学園都市センター
時間 /14:30・18:30 開演
前売料金 /4,200円 (全席自由)

【菊の会 友の会懇親パーティ】
4月21日(土) 東京會館

【菊の会公演 会館自主事業公演】
6月10日(日) 武蔵村山市民會館

【菊の会自主公演】
6月30日(土) 千葉市文化センター

【菊の会自主公演】
7月8日(日) 所沢市民文化センター・ミュージ



「御陣乗太鼓」

※上記の日程は予定ですのでご確認の上御来場下さい。
お問い合わせ：菊の会事務局 03-5983-6001